

豊かなノ「長が川がまう可能性

現在まで

昭和52年に干拓工事の全てが終了し、それから43年もの 月日が流れました。

工事終了の翌年、昭和53年からは「アオコ」が継続的に

発生しています。私がこの世に生まれたのが昭和53年8月ですので、この街の方たちは私の 人生と同じ時間、この「アオコ」の問題を抱えてきていることになります。この間、湖内の水 質は悪化の一途をたどり、平成13年には全国の湖沼水質ワースト5位。平成18年にはワース ト3位となってしまい、平成19年には国の「湖沼水質保全特別措置法」における指定湖沼に 指定されています。



馬踏川に設置されたアオコ抑制装置

水質の悪化が進んでいる現在の八郎湖で すが、秋田県では、この状況を少しでも良く しようと、平成18年に「八郎湖環境対策室」 を設置し、平成20年には「湖沼水質保全計画 (第1期) | を策定し(現在3期計画期間中) 水質の改善に努めているところです。

平成12年からのデータですがアオコ発生 源対策、湖水浄化対策、応急対策として今ま での総額で約7億8千万円もの費用を投入 し、これらの対策事業を継続的におこなって

きています。ですが、なかなか思うような成果が上がっていない現状であり、今後この水質 改善に向けてどう挑戦していくか、どう一歩前に進めていくのかをみんなで考え、行動して いかなければいけないと思っています。

議会外での、いろいろな活動。

天干グリーンランドなどにストリートピアノ設置



誰もが触れられる 音楽があふれる街へ。

東湖小健康寿命延伸プログラム支援



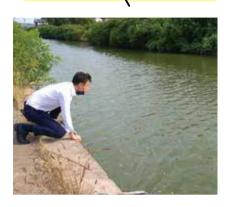
牛活習慣は 小さい時から作られる。

青年局 街頭運動



お伝えさせていただきました。

これから



水質改善と産業の復活を考える。

以前の八郎潟(干拓前の呼称)は全国でも2番目の広さ を誇り、海水と真水が混ざり合う「汽水湖」だったため、 たくさんの種類の魚などが多く採れる豊かな漁場だった と先輩たちに教えていただきました。

汽水から真水に変わってしまったことで起こった牛熊 系の変化や水質の悪化、漁業者の高齢化などが原因で 年々減っている漁業の許可件数と漁獲高数。中でも汽水 でしか繁殖できない「ヤマトシジミ」は今やほぼ採れなく なってしまっています。しかし、このシジミの漁獲(下表

参照)を見ると、1990年ごろに漁獲高が突然上がっているのが分かると思うのですが、な んとこの年は1万トンものシジミが採れました。現在のヤマトシジミの漁獲高日本一が島根 県の宍道湖の約4千トンであることからしても、その数年間が、いかに八郎湖のシジミが多

く採れたのかが分かります。シジミが急激に採れた 要因は、台風による海水の流入がポイントで、この ことにより、湖内が汽水化されました。シジミの繁 殖時は若干の塩水が必要と言われており、塩水の 流入とシジミの繁殖期のタイミングがバッチリだっ たことが大きく影響しています。

さらに、シジミはアオコなどを餌として体内に取り 込み、綺麗な水を吐き出します。継続的にシジミが採 れる湖になることで、水質改善の可能性と失われた 産業の復活ができるのではないか。

この過去のデータに、私は八郎湖再生の可能性を 見てしまうのです。

八郎湖のデータ

八郎湖許可漁業件数

2011年

2021年

漁獲高の推移

1956年

2020年

八郎湖しじみ収穫量

1957	1988	1989	1990	1995	2020
(S32)	(S63)	(H元)	(H2)	(H7)	(R2)
1,759	47	1,755	10,750	58	トン
トン	トン	トン	トン	トン	

地域スポーツの振興



大好きなバスケを通じ、子どもたちと ともに成長させていただいています。

潟 トロータリークラブにて講演



想いを述べさせていただきました。

地域サロン活動を視察

